

平成30年度シマフクロウ傷病個体收容結果

表1 平成6～30年度シマフクロウ傷病個体收容結果（平成31年3月31日時点）

年度 (平成)	交通事故	列車事故	感電事故	羅網	溺死	捕食・襲撃	標識調査時 收容	不明	(件)		(羽)	
									その他		死体	生体
6				1			2	2		2	3	5
7	1						2		2	3	2	5
8							2	1		1	2	3
9	2		1		1	1	2		1	4	4	8
10	2			2						1	3	4
11	1			1	1		1	1		4	1	5
12	1			1			1				3	3
13	3					1		2		5	1	6
14			1	3			1	1		3	3	6
15	1								1	2		2
16	1		1	1	1	1		4		9		9
17	2					1	1	1		2	3	5
18			1			2			1	4		4
19	2		2	2		1				3	4	7
20	1		1	1	1		2			5	1	6
21	2			1					1	3	1	4
22	3		2			2			1	4	4	8
23	1				2	1	1	2	3	5	5	10
24			1		2	1		2		6		6
25	1			1		2	2	2	1	6	3	9
26	1					1		1	1	3	1	4
27	3					1	2			5	1	6
28			1			1	1	2		5		5
29									1	1		1
30	3	1			1				3	5	2	7
計	31	1	11	14	9	16	20	21	16	91	47	138

※1 表中のデータはシマフクロウ保護増殖事業計画が策定された翌年の平成6年度からとした。

※2 各原因別の收容件数の合計が收容個体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容個体があるため。

平成30年度：溺死とその他が1羽

※3 「標識調査時收容」は、標識調査時に生育に異常が見られた個体又は死体を收容したもの。ただし、キツネ等他の動物に襲われたと考えられるものは捕食・襲撃に分類した。

※4 「その他」としては、栄養不良、トラバサミ、電柱の金具に引っかかる、集合煙突内に侵入、他のシマフクロウによる襲撃、感染症疑い、内科疾患などがある。

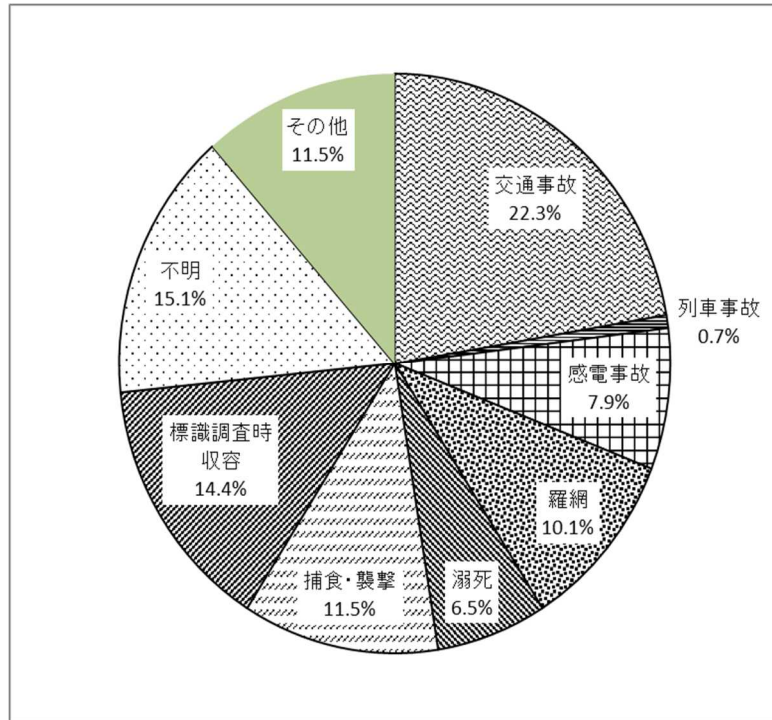


図1 シマフクロウ收容原因別割合 (H6-30年度)

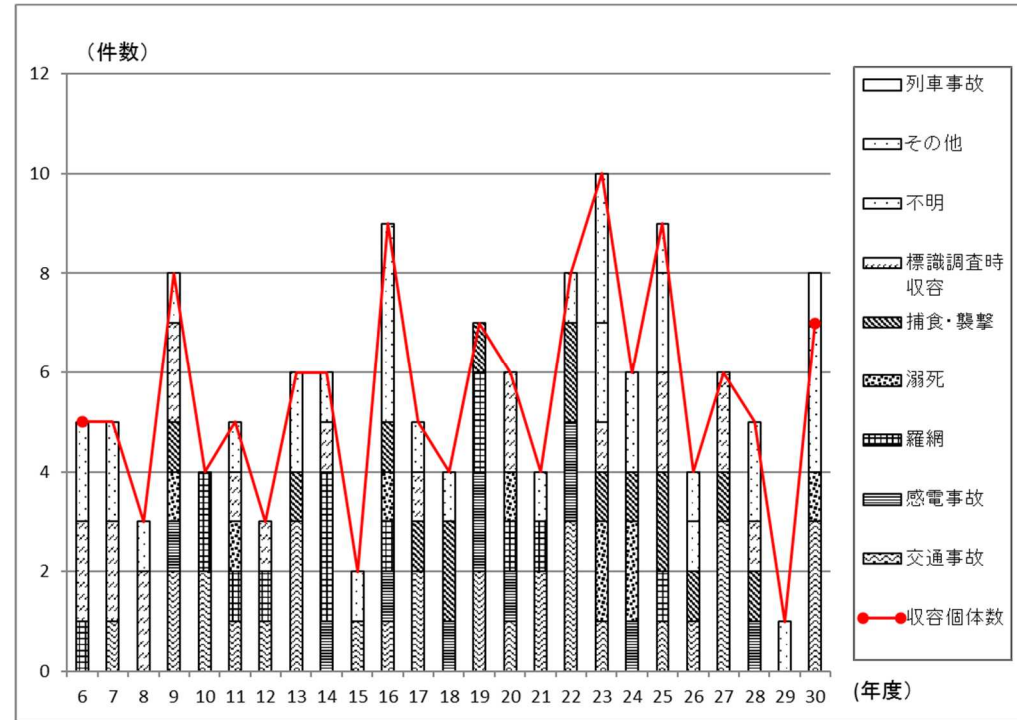


図2 シマフクロウ年度別收容件数 (H6-30年度)

※各原因別の收容件数の合計が收容个体数を上回る年があるが、これは複数の原因が考えられる收容个体があるため。